エントリーシート問題：<u>どれか一つの設問を選択</u>し、問題に答えてください。

<u>設問１</u>

最近、日本では高齢化が進展しており、同時に中小企業の社長の高齢化も進んでいる。東京商工リサーチによる「2015 年 全国社長の年齢調査」（http://www.tsr-net.co.jp/news/analysis/20160208_06.html）によると、2015 年の全国社長の平均年齢は 60.89 歳（下図参照）であり、70 代以上の社長の比率が伸びている。この記事を参照したうえで、以下の問題に答えなさい。

図：社長の平均年齢推移（出典：東京商工リサーチ「2015 年 全国社長の年齢調査」）

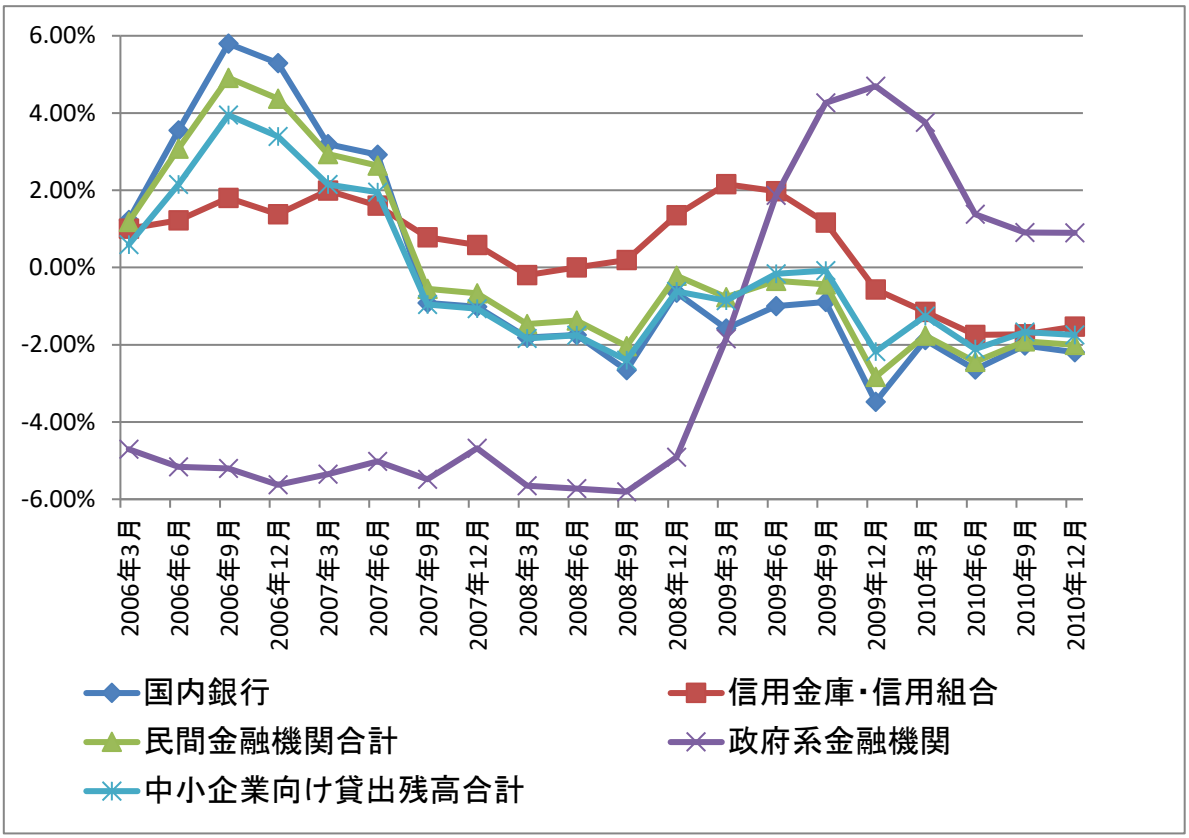
（１）中小企業の社長の高齢化が進むと、金融機関の中小企業向け貸出市場がどのように変化するだろうか？資金需要と資金供給の変化を明示的に示したうえで、社長の高齢化が貸出や金利に与える影響を需要供給曲線のグラフを使って理論的に示しなさい。なお、縦軸を金利、横軸を貸出量とすること。

（２）社長の高齢化の進展に伴い、政府は円滑な事業承継を促すために様々な税制優遇や政策を実施している。事業承継を政策的に促進すると、社会的にどのような便益や弊害が生じるだろうか？上記の商工リサーチの調査等のデータを参照しながら、現在の政府の事業承継促進に関する政策を説明したうえで、事業承継を政策的に促進することの是非を 800 字以上で論じなさい。（適切である or ないという答えよりも、文章全体が論理的であるかどうかを重要視します。（現在の政策の説明ではなく）政策の是非を中心に論述してください。参考文献がある場合は、最後に正確に記載してください。コピペは厳禁です。自分で考えて書いてください。）

設問２

以下のグラフは国内銀行、信用金庫・信用組合、政府系金融機関の 00 年代後半の中小企業向け貸出残高の変化率[＝（今期中小企業向け貸出残高－前期中小企業向け貸出残高）／前期中小企業向け貸出残高]を示したものである。このグラフによると、サブプライムローン問題やリーマンショックが発生した 07 年 9 月以降、中小企業向け貸出残高合計の変化率がマイナスに転じている。つまり、この時期に中小企業向け貸出が大幅に減少している。このことを踏まえ、下記の問題に答えなさい。

図：中小企業向け貸出残高の対前年比伸び率（出典：中小企業庁『2011 年版中小企業白書』）



１）図 1 は中小企業向け貸出残高の対前年比伸び率の 06 年から 10 年の推移である。また、中小企業の貸出金利（有利子負債利子率）は 07 年第 1 四半期においては 2.1%、08 年第 4 四半期においては 1.8%である。これらのデータをもとに、07 年から 08 年にかけて、貸出需要曲線又は貸出供給曲線がどのように変化したか、グラフを用いて簡潔に説明しなさい。（グラフの横軸は貸出量、縦軸は貸出金利とすること。なお、丁寧に論じている回答を高く評価します。）

２）07 年から 08 年にかけて中小企業向け貸出市場においてクレジットクランチの発生が懸念されていた。クレジットクランチとは、ある金利の下で、民間金融機関が中小企業への貸出供給を大幅に減少させる現象である。１）の分析からクレジットクランチが発生していたかどうか、理由とともに簡潔に答えなさい。

３）08 年 12 月以降に政府系金融機関の貸出残高の対前年比伸び率が大幅に上昇している。政府系金融機関がこの時期に貸し出しを増やすことは社会全体にとって適切であったか、政府系金融機関の社会的なベネフィットとコストに言及し、図 1 のグラフに触れながら、理由とともに 800 字以上で論じなさい。（適切である or ないという答えよりも、文章全体が論理的であるかどうかを重要視します。参考文献がある場合は、最後に正確に記載してください。コピペは厳禁です。自分で考えて書いてください。）

設問３

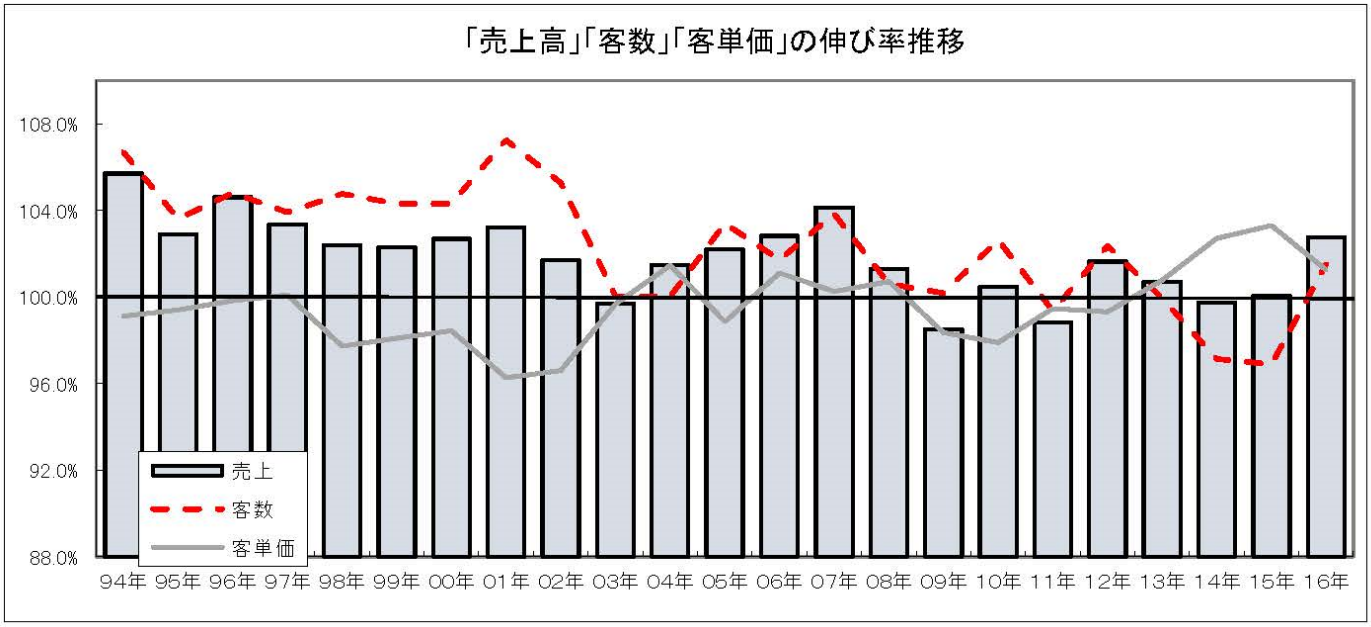
インターネットの普及に伴い、食べログ、ホットペッパーなどを利用することにより、飲食店に関する情報を消費者が入手しやすくなった。このため、消費者は初めて訪れた場所でも気軽にレストランなどの飲食店などを利用しやすくなったと考えられる。

１）食べログやホットペッパーなどの口コミ・情報サイトが飲食店の需要と供給にどのような影響を与えるだろうか？これらの口コミ・情報サイトの飲食店の消費量や価格に対する影響を需要供給曲線のグラフとともに理論的に説明しなさい。（縦軸に価格、横軸に消費量として、グラフを書くこと。）

２）日本フードサービス協会による「外食産業市場動向調査 平成２８年（２０１６年）年間結果報告」（http://www.jfnet.or.jp/files/nenkandata-2016.pdf）に掲載された「「売上高」「客数」「客単価」の伸び率推移」によると、リーマンショック（2008 年）以前の外食産業の「客数」「売上」の伸び率よりも、リーマンショック後の伸び率の方が低い傾向がみられる。なぜ、最近の外食産業の「客数」「売上」の伸び率は低いのだろうか？また、外食産業の消費を喚起するために、どのような政策が有効だろうか？そのそも、そのような政策は社会的に有益だろうか？１）の回答、および前述した日本フードサービス協会による調査に掲載されたデータを参照しながら、政策の有効性および必要性の理由とともに、800 字以上で論じなさい。（文章全体が論理的であるかどうかを重要視します。参考文献がある場合は、最後に正確に記載してください。コピペは厳禁です。自分で考えて書いてください。）

図：売上高」「客数」「客単価」の伸び率推移

（出典：日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査 平成２８年（２０１６年）年間結果報告」）

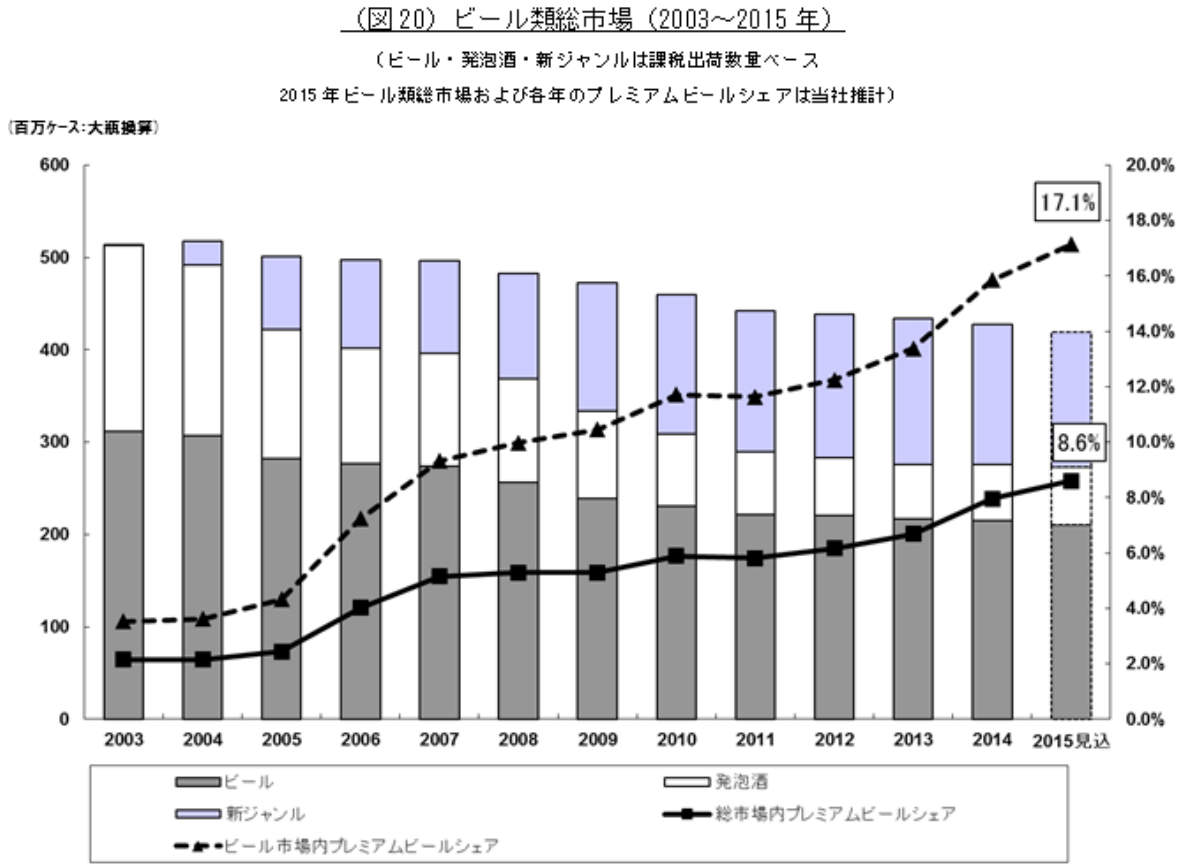


設問４

下図は最近のビール、発泡酒、新ジャンルビール等の出荷数量の推移である。このグラフを見ると、最近、プレミアムビールのシェアが大きく伸びている。この要因の一つとして、ビール会社がプレミアムビールの販売を促進し、供給を増やしたことが考えられる。このことを踏まえ、以下の問題に答えなさい。

図：ビール類総市場における出荷数量の推移

（出典：Suntory ホームページ ニュースリリース http://www.suntory.co.jp/news/2015/12357-2.html）



1）プレミアムビールは贅沢品であると考えられる。この場合、プレミアムビールの需要の価格弾力性は弾力的だろうか？非弾力的だろうか？理由とともに簡潔に答えなさい。

2）1）で答えたプレミアムビールの需要の価格弾力性を踏まえ、なぜ、ビール会社のプレミアムビールの供給が増えると、消費量が大幅に増えたのだろうか？需要供給曲線をグラフで示した上で、理論的に説明しなさい。なお、縦軸は価格、横軸はビールの数量としてグラフを示すこと。

3）政府は 2017 年 6 月に酒税法を改正し、酒類の安売り規制が強化された。これにより、小売店は総販売原価を下回る価格でのビールの販売をできなくなった。このような規制は社会的に望ましい規制だろうか？2）で示した需要供給曲線のグラフを活用しながら、あなたの意見を 800 字以上で述べなさい。（グラフを示しながら説明した回答には高い評価をします。文章全体が論理的であるかどうかを重要視します。参考文献がある場合は、最後に正確に記載してください。コピペは厳禁です。自分で考えて書いてください。）